

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	選択
担当教員			
大澤 茂男			
月5			
添付ファイル			

科目の概要	プレゼンテーションという人間の行為(働きかけ)について総合的に学びます。理論的整理をしながら現代の保育・教育や子どもの課題に的確に対処できる人材にとって必要なプレゼンテーション技術・能力について考え、学んでいく授業です。
授業の内容	<p>第1回 オリエンテーション 各回の内容を説明し、プレゼンテーションについて学ぶことの意義を確認します。</p> <p>第2回 プレゼンテーションの定義について いくつかの定義を紹介し、自分なりの定義づけも行ってみます。</p> <p>第3回 プレゼンテーションの「型」(分類要素)について 目的にそってプレゼンテーションをタイプ分けしてとらえます。そのうえで、それがいくつかの要素として機能することに注目します。</p> <p>第4回 プレゼンテーションにおける聴き手分析① 聴き手の分析の重要性について触れ、いくつかの観点から聴き手を分析的にとらえます。</p> <p>第5回 プレゼンテーションにおける聴き手分析② 聴き手の属性や社会的立場などに着目し、それによってどのような準備をすべきかを考えていきます。</p> <p>第6回 聴き手分析のための理論 マズローの欲求段階理論や、広告作成の理論(AIDMA, AISAS)などをプレゼンテーションの準備に生かすことについて認識を深めます。</p> <p>第7回 プレゼンテーションの構成(シナリオ)① プレゼンテーション構成の基本について学びます。</p> <p>第8回 プレゼンテーションの構成(シナリオ)② 前時の学びをもとに、3部構成の実際について演習的に学びます。</p> <p>第9回 プレゼンテーションのツールについて 効果的なプレゼンテーション実施のための様々なツールの特徴と活用の仕方について学びます。</p> <p>第10回 プレゼンテーションにおけるビジュアル化について 視覚資料の効果について学び、その活用について考えます。</p> <p>第11回 ビジュアル化と図解化について ビジュアル化の一手法として有効な図解化について認識を深め、若干の演習を行います。</p> <p>第12回 PCでのプレゼンテーション資料づくり① テーマを各自で決め、プレゼンテーション実践の現場を想定したスライド資料作りをPC室にて行います。</p> <p>第13回 PCでのプレゼンテーション資料づくり② 前時に続き、PC室にて資料作りをすすめます。モニターを利用してお互いの作成資料を閲覧しあいながら行います。</p> <p>第14回 プレゼンテーションの総合力を伸ばすためのヒント 言葉遣いなども含め、プレゼンテーションの力を総合的に高めていくための工夫や手法について考えます。</p> <p>第15回 まとめ、全体の振り返り 前回までの学びを振り返り、今後の学びや職業生活のなかでプレゼンテーションの実践に積極的に取り組めるよう、成果と課題についてまとめてみます。授業アンケートも実施します。</p>
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼンテーションとは何か、自分なりに定義づけることができる。【知識・技能】</li> <li>・プレゼンテーションという行為(あるいはコミュニケーション)がどのような要素から成り立っているかを理解し、それを踏まえた計画と実行ができる。【思考・判断・表現】</li> <li>・プレゼンテーションに関して本授業で学びえたことを以後の自身の生活の中に生かそうとする態度や意欲を有している。【主体性】</li> </ul>
授業の方法	<p>【授業形態】講義形式ですが、ワークシートを活用した表現活動を授業の一部に取り入れます。</p> <p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】特になし。</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】クリッカーやタブレットは活用しませんが、遠隔授業を行う場合、課題提出・返却(コメント付き)にMSTeamsを活用します。</p> <p>【その他特記事項】新型コロナウイルス感染状況に応じて遠隔授業の形をとる場合があります。</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】各授業回の成果物評価(平常点)、定期試験(論述式テスト)。</p> <p>【割合】各授業回の成果物評価(平常点)50%、定期試験(論述式テスト)50%として評価します。</p>
教科書・テキスト	教員自作の資料(スライド、プリント)を用います。

参考書	各回のテーマに沿った文献などを授業中に適宜紹介します。
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	授業時に課されるいくつかのワークについては、授業時間外で取り組んでもらうものもあります。また、各回のテーマに関連する事前学習をその前の回に指示することがあります。
履修上の留意事項	出席の要件を満たし、論述式テストの出来が十分であっても、成果物の提出が不十分だと合格点に達しない場合があります。特別な場合を除き、「プレゼンテーション演習」の受講には本科目の修得が前提となります。
オフィスアワー	月1、金5（4-403研究室）
課題に対するフィードバックの方法	各教員とも、提出の次の授業週にコメントを付して返却する形をとります。
実務経験	特記事項なし
その他	